様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：１３１０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｈ０３７５８

研究課題名（和文）植民地被統治民衆子弟生徒のアジア認識及び日本認識の変遷に関する総合的研究

研究課題名（英文）A study of Asian and Japanese perceptions of students in colonial ruled area

研究代表者
梅野　正信（UMENO, MASANOBU）

上越教育大学・その他部局等・理事兼副学長

研究者番号：５０２０３５８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　10,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、植民地統治期において、朝鮮半島、台湾、中国等の中等学校生徒による日本やアジアに対する認識の特色について、書籍、雑誌、文書、聴き取り調査等により明らかにすることにあった。
　研究の成果として、日本人生徒が通っていた学校、台湾や朝鮮半島出身の生徒が通っていた学校では、日本に対するイメージが、強力な社会的圧力に同調を強いられる形で表明されていた事実や特徴を明らかにした。また、中国東北部で中等学校に通っていた日本人を対象とした、アンケート調査を実施し整理した。
　韓国教員大学校（2017年）及び台湾の南華大学（2018年）において、各国の研究者、学会等との国際学術研究会議を開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　日本人生徒が通っていた学校、台湾や朝鮮半島出身の生徒が通っていた学校では、同様に、強力な社会的圧力に同調を強いられる形で日本に対する肯定的評価が表明されていたこと、また、生徒らによる率直な意見表明の存在等を確認することができた。
　聴き取り調査等では、台湾や朝鮮半島出身の方から、戦前戦後における対日本認識の変化等について、中国東北部で中等学校を経験した日本人からは、当時と今日の日本及びアジア認識について、アンケート調査等で確認することができた。また、台湾、韓国の、植民地教育研究、日本研究に関わる研究者や研究会との国際合同学術会議を開催できたことも、本研究の学術的成果といえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the characteristics of the recognition of Japan and Asia by secondary school students such as the Korean Peninsula, Taiwan,and China during the colonial rule period through books, magazines, documents, interviews, etc. As a result of research, in schools where Japanese students were attending, and schools where students from Taiwan and the Korean Peninsula were attending, the fact that an image of Japan was expressed as being forced to follow strong social pressure and clarified the features. We also conducted and organized a questionnaire survey targeting Japanese people who attended secondary school in Northeast China.
We held international academic research conferences with professors from Tiwan and Korea, academic societies, etc. at Korea National University of Teacher Science (2017) and Nanhua University of Taiwan (2018).

研究分野：教育史

キーワード：植民地教育　校友会雑誌　アジア認識　日本認識　学校教育史

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

戦前期のアジア認識及び日本認識は、思想家や政治家、大人、大学生や高等学校学生を対象とした分析・研究がみられるが、中等諸学校生徒の認識はほとんど研究されてこなかった。戦前の進学率は昭和初期でも 10%前後であり、全国民からみれば少数にとどまることは事実だが、それでも個人や大学・高等学校の学生と比べより広範な層を対象とする研究といえる。

生徒たちの当該時期における真意や本旨を遡って検討する際には、公表された刊行物に記述された当時の文言のみを根拠に検討することには、慎重でなければならないが、日本が、国家及びと社会として公認・流布し、同調を求めた言辞が、どのように生徒たちの言辞に反映していたのかを検討することは一定の息があると思われる。

本研究では アジア認識と日本認識、戦前と戦後、学校教育に関わる領域を研究主題とし、台湾、韓国、中国東北部を対象地域として、戦前期に中等学校生であった日本出身者と台湾、朝鮮半島、中国出身者による記述や聞き取りを通して、戦前期のアジア認識、日本認識の特徴を整理する。中等学校段階のこのような研究、調査、考察は、これまで十分に行われてきておらず、研究上の意義は少なくないと思われる。

本研究は、梅野正信を研究代表者として、学校『校友会雑誌』の調査研究で成果を持つ斉藤利彦（学習院大学)、市山雅美（湘南工科大学)、東アジアの歴史認識研究を専門とする高吉嬉（山形大学)、國分麻里（筑波大学）を研究分担者とし、海外共同研究者として、呉文星（台湾師範大学)、金恩淑（韓国教員大学校)、徐鍾珍(韓国東北亜歴史財団)の協力を得て実施する。当該主題を東アジア諸国の研究者との共同研究という形で取り組む意義も、あるように思われる。

２．研究の目的

戦前期のアジア認識、日本に対するイメージ、日本認識は、統治側に立つ日本出身者子弟の記述の多くにより、「非常時」「総動員体制」「日本精神」という時局・時流の言辞をもって、校友会雑誌誌上をリードしていた。他方、対中国、対英米戦の開始期にあっても、日本出身者による日本の外交政策に対する反省点の指摘、被統治地域民衆子弟による、近親者の出征や戦死を率直に悲しむ記述、朝鮮半島の農業や教育に尽くす将来の決意を表明する記述などもみられた。本研究では、このような傾向が、一般的な傾向であったのか否かを含めて考察する。そのため、さながら日本人が通学していた学校だけでなく、被統治地域民衆子弟が多くを占めた学校の校友会雑誌、戦後の同窓会雑誌、同窓会員への聞き取り等をもって、アジア認識、日本認識の総合的検討を行うことで、戦前・戦後のアジア認識と日本認識の連続と断然の特徴を整理する。

３．研究の方法

植民地統治期における非統治民衆子弟の在籍する校友会雑誌等に焦点をあて、国内外、とりわけ中国、台湾、朝鮮半島の校友会雑誌等、同窓会雑誌等を収集・複写し、日本出身者、日本人以外の生徒のアジア認識・日本認識に関する記述の変遷を分析する。また高齢となられた生存者からの聞き取り調査を行うとともに、中国東北部で中等学校に通っていた人々に対する文書による調査を行った。以上のような研究方法を用いて、生徒及び現在生存する方々の記述等を考察する。

４．研究成果

本研究では、日本人生徒が通っていた学校、台湾や朝鮮半島出身の生徒が通っていた学校では、日本に対するイメージが、強力な社会的圧力に同調を強いられる形で表明されていた事実や特徴を明らかにした。また、中国東北部で中等学校に通っていた日本人を対象とした、アンケート調査を実施し整理した。

日本人生徒が通っていた学校、台湾や朝鮮半島出身の生徒が通っていた学校では、同様に、

強力な社会的圧力に同調を強いられる形で日本に対する肯定的評価が表明されていたこと、また、生徒らによる率直な意見表明の存在等を確認することができた。

聴き取り調査等では、台湾や朝鮮半島出身の方から、戦前戦後における対日本認識の変化等について、中国東北部で中等学校を経験した日本人からは、当時と今日の日本及びアジア認識について、アンケート調査等で確認することができた。

また、①韓国教員大学校（2017 年）及び②台湾の南華大学（2018 年）において、各国の研究者、学会等との国際学術研究会議を開催した。台湾、韓国の、植民地教育研究、歴史研究、日本研究に関わる研究者や研究会との国際合同学術会議を開催できたことも、本研究の学術的成果といえる。

①地域史学会共同国際学術大会「植民地時期の教育」

日時：2017 年 11 月 18 日(土)

主管：湖西史学会、韓国教員大学大教育博物館

主催：大邱史学会、釜山慶南史学会、湖南史学会、湖西史学会

場所：韓国教員大学大教育博物館講堂

②南華大學人文學院國際學術研討會「日本植民地期における台湾の教育と東アジアに対する認識」

日期：2018 年 11 月 17 日（土）　11 月 17 日

主辦：南華大學人文學院 協辦：日本上越教育大學

地點：南華大學成均館會議室

本研究では、最終年度末（2019 年 3 月）に、本研究の成果を研究論文集として冊子体に整理し、関係者に送付した。下記はその内容である。

『植民地被統治民衆子弟生徒のアジア認識及び日本認識の変遷に関する総合的研究』

１戦前期台湾における旧制中等教育諸学校校友会雑誌にみるアジア認識及び日本認識（梅野正信）

２戦時期の大連・新京における旧制中等教育学校生徒のアジア認識－アンケート調査・聞き取り調査の分析から－（市山雅美・斉藤利彦）

３アンケート調査　資料（市山雅美・斉藤利彦）

４聞き取り調査の記録（市山雅美・斉藤利彦）

５日本統治末期台湾師範学校生徒の東アジア認識について－台南・台北第二師範学校の修学旅行を中心に－（呉文星）

６京城師範學校の修學旅行（金恩淑）

７大邱師範学校校友会誌に掲載された文章を通じて見た朝鮮人学生のアジア認識（金恩淑）

８戦時体制下の植民地朝鮮人学生のアジア認識－京畿中学校『学友会誌』を中心に－（徐鐘珍）

９福岡高等女学校卒業生の「東アジア」移動－『香蘭会誌』における同窓会活動を中心にして－（國分麻里）

10 研究の経緯（高吉嬉）

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）

①高吉嬉、「「二人の「巧」と韓国－浅川巧と藤本巧にみる日韓相互認識－」（韓国語）」、東義大学東アジア研究所『東アジア研究叢書：戦後 50 周年、韓日修交 50 周年』、バクムン社、査読なし、2016、11－46

②高吉嬉、李仲變と山本方子にみる「日韓多文化家族」（その１）－植民地、戦争、貧困、離散、そして愛－、韓国日本近代学会、韓国日本近代学会第 34 回国際学術大会 Proceeding、査読無し、2016、220－229

③呉文星、平等、自主、普及--1920 年代台湾先賢的教育需求、黄煌雄編『三代台湾人：百年追求的現実与理想』、遠足文化、査読なし、2017、105－133

④斉藤利彦、近代日本における青年の知的探究と自己形成－林尹夫『わがいのち月明に燃ゆ』と新資料に即して－、学習院大学教育学科『学習院大学教育学・教育実践論叢』３、査読なし、2017、3－36

⑤高吉嬉、日本の大学生の周辺国とアメリカに対する他者認識と自己認識－日本の中学校社会科教育の課題を模索しつつ－、韓国日本近代学会、韓国日本近代学会第 35 回国際学術大会 Proceeding、査読無し、2017、282－285

⑥山元研二、梅野正信、戦後補償問題の授業開発に関する研究－判決書教材活用の視点から－、上越教育大学研究紀要、 37-2、査読なし、2018、313-321

⑦市山雅美、1930 年代の台湾の中学校の「満州・朝鮮」の修学旅行の記録に表れた生徒のアジア認識、「歴史と談論」韓国湖西史学会、第 86 集、査読無し、2018、33-64

⑧國分麻里、茨城県水海道小学校における戦後新教育実践－「はえのいない町」(1950 年)の撮影と社会科授業－、筑波大学教育学系論集、42、査読なし、2018、14-28

⑨高吉嬉、草の根の人々の交流から考える日韓友好－旗田巍・浅川巧・藤本巧を中心に－、日本社会科教育学会『社会科教育研究』134 号、査読有り、2018、50－60

〔学会発表〕　計 8 件

①國分麻里、福岡高等女学校卒業生の東アジアの移動、韓国湖西史学会・韓国教員大学校「植民地期の教育」國際學術大會、2017

②梅野正信・金恩淑、植民地被統治民衆子弟にみるアジア認識－校友会雑誌の記述をてがかりに－、韓国湖西史学会・韓国教員大学校「植民地期の教育」國際學術大會、2017

③市山雅美、1930 年代の台湾の中学校の「満州・朝鮮」の修学旅行の記録に表れた生徒のアジア認識、韓国湖西史学会・韓国教員大学校「植民地期の教育」國際學術大會、2017

④呉文星、日本統治末期台湾師範学校生徒の東アジア認識について－台北第二師範学校の修学旅行を中心に－、韓国湖西史学会・韓国教員大学校「植民地期の教育」國際學術大會、2017

⑤梅野正信、戦前期における朝鮮半島、台湾の日本認識及びアジア認識、台湾南華大學人文學院國際學術研討會「日治時期台灣的教育與東亞認識」、2018

⑥斉藤利彦・市山雅美、戦時期の大連・満州における旧制中等教育学校生徒のアジア認識 アンケート調査の分析から、台湾南華大學人文學院國際學術研討會「日治時期台灣的教育與東亞認識」、2018

⑦金恩淑、大邱師範學校の校友会雑誌からみる朝鮮人学生と日本人学生のアジア認識、台湾南華大學人文學院國際學術研討會「日治時期台灣的教育與東亞認識」、2018

⑧徐鐘珍、植民地期朝鮮人学生のアジア認識；京畿中学校の校友会雑誌を中心に、台湾南華大學人文學院國際學術研討會「日治時期台灣的教育與東亞認識」、2018

〔図書〕　計 3 件
①高吉嬉・國分麻理・梅野正信ほか、交流史から学ぶ東アジア－食・人・歴史でつくる教材と授業実践－、明石書店、2018、総頁数 136
②梅野正信・斉藤利彦・市山雅美・呉文星・金恩淑・徐鐘珍、日治時期台湾的教育與東亞認識国際学術研討會会議實録論文集、南華大学人文学院、2018、総頁数 300
③梅野正信・斉藤利彦・市山雅美・呉文星・金恩淑・徐鐘珍・高吉嬉・國分麻理、植民地被統治民衆子弟生徒のアジア認識及び日本認識の変遷に関する総合的研究（JSPS16H03758 研究成果報告書（論文集））、2019、総頁数 270

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）
○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
ホームページ等　無

６．研究組織
(1)研究分担者
研究分担者氏名：斉藤利彦
ローマ字氏名：SAITO Toshihiko
所属研究機関名：学習院大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号（8 桁）：20178495

研究分担者氏名：市山雅美
ローマ字氏名：ICHIYAMA Mssami
所属研究機関名：湘南工科大学
部局名：工学部
職名：教授
研究者番号（8 桁）：50410030

研究分担者氏名：高　吉嬉
ローマ字氏名：KO Kilhee
所属研究機関名：山形大学
部局名：地域教育文化学部
職名：教授
研究者番号（8 桁）：20344781

研究分担者氏名：國分　麻里
ローマ字氏名：KOKUBU Mari

所属研究機関名：筑波大学
部局名：人間系
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：10566003

(2)研究協力者

研究協力者氏名：呉文星
ローマ字氏名：Wu Wen hsing

研究協力者氏名：金恩淑
ローマ字氏名：Kim Eunsook

研究協力者氏名：徐鐘珍
ローマ字氏名：Seo Jong Jin

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。